

昭和50年4月

平城宮発掘調査出土木簡概報(十)

奈良国立文化財研究所

この概報には、さきに公刊した『平城宮発掘調査出土木簡概報九』（昭和48年5月）以後、平城宮跡から発見された木簡を『平城宮発掘調査出土木簡概報十』として収録する。

以下、平城宮内の木簡出土地域ごとの状況を述べ、木簡の形態分類・凡例と釈文をかかげる。

一、木簡出土の地点と状況

第78次南（GAAB区）昭和48年4月～同年7月

第78次南調査は、推定第二次内裏東北部分の後宮地域にあたる北区で行なった。後宮中心部の調査は、すでに第36次調査で終了しているが、今回の調査はその東方部にあたり、掘立柱塀15条、建物12棟、溝8条、井戸1基などを検出した。木簡は、この井戸（SE7900）の埋土中から一点発見された。発掘調査の結果は、第36次調査や昭和49年度夏に実施した北隣接区の調査とをあわせて、発掘調査の完了した内裏東半部について総合的に理解する必要がある。詳細についてはなお検討の余地が残されているが、概要はつぎのようである。大別して五時期にわけられる。

A期 内裏造営に先行する遺構群がある。掘立柱柵（S46905）によって、方六〇〇尺の区画が作られ、その内方に小規模な建物が建てられる。

B・C期 A期に形成された区画から若干南に位置して、東西六〇〇尺、南北六三〇尺の長方形区画があり、その内方に10尺方眼割付けによって建物が建てられる。この上限は聖武天皇即位の神亀年間ごろ、下限は天平末年頃と推定される。

D期 東西六〇〇尺、南北六三〇尺の区画を築地廻廊で囲み、この回廊内に建物群を配置し、本格的な内裏造営の行なわれる時期である。この上限は、瓦の編年からみて天平末年頃と考えられる。木簡の出土した井戸（SE7900）は、この築地廻廊のほゞ4間分をその一部に組入れて作られた、東西8.3m、南北14.5mにおよぶものである。井戸から同時に出土した遺物には和銅開珎、神功開宝、隆平永宝各一点、土馬、櫛などがある。

E期 検出した遺構の中でもっとも新しい時期のものである。

第91次調査（GABE区）昭和49年7月～同年10月

調査は、推定第二次大極殿西外郭の西南隅にあたる地域で実施した。この地区は第41次調査の東隣地区にあたり、また東対称位置の昭和43年度の第35次調査の結果からは、大極殿外郭を囲む築地塀とその内側に礎石建物などの存在が予想されていたところである。調査の結果、予想通り築地塀、これにとりつく門、礎石建物、塀立柱柵列二条などを検出した。

平城宮北方の丘陵は、第一次・第二次内裏地域に向かつて張り出しているが、調査地はちょうどその谷間にあたる、元来低湿地の地域であった。平城宮造営とともに、この低湿地を埋め立てて（厚さ50cm）整地し、第一期の建物を建設している。木簡は、自然木や埴輪片を含んだ黒色粘土層の旧表土上に堆積した建築用材の破片や削屑、檜皮とともに出土した。第一期に属する建物群は柵列（SA8165）工事用の仮設建物五棟などがある。この時期は、掘立柱柵列が内裏外郭を区画するのに用いられていた。木簡はこの第一期の造営中に使用されて廃棄されたものといえることができる。つぎに第二期の埋め立てが行なわれる。この時期になると、築地塀が柵列の上に建設され、大極殿外郭をと

り囲むことになる。この築地塀の内方に礎石建物（七×四間東向）がある。これは前述の第35次調査時の礎石建物と対称の位置にある。この建物の真南に築地塀にとりつく門（三×二間）がある。この時期に現在第二次内裏・大極殿と呼称している地域は、一応整備完成される。

木簡はその出土状況からみて、第一期の造営にあたりこの地区の低湿地を埋め立てながら、造営工事が進行していく過程で廃棄されたものと考えられる。出土地点は発掘調査区の南西部にあたる。低湿地を埋め立てたと考えられる地区を、東西約6m、南北約15mにわたって、旧地表面に達するまで全面発掘した。その結果、発掘区外の南方に向かってさらに低湿地が拡がり、木簡を含む層があることが判明した。木簡を含む層（暗灰粘質土）は、黒色粘土層の旧表土層の上に、厚いところで20cm余あり、これに建築用材の破片や削屑、檜皮などが含まれていた。

木簡の総出土点数は242点で、その中から46点を選んで釈文を掲げた。掲載木簡の内訳は文書様木簡7点、貢進札30点、物品付札0点、習書3点など（他は断定できないもの）で、なかでも圧倒的に貢進札が多いことが注目される。しかもこれらの貢進札の郡名・里名の記載法、年紀（和銅

二年・和銅三年)からみて、「続日本紀」和銅六年五月甲子条の「畿内・七道諸国の郡郷名には好き字を著けよ」という制が出される以前の木簡であることがわかる。貢進物も大部分は米(白米)で、出土状況や出土遺構との関係から考えて、遷都直後の平城宮造営が進行するなかで、造営従事者らに支給された食料であったとみることができよう。

第92次調査(6ACC区) 昭和50年1月

この調査は、平城宮整備に伴う浄化槽設置の事前調査として小規模な範囲で行なった。調査地は、通称一条通りに沿った佐紀池のすぐ南、小字「池尻」と呼ぶ地域で、第28次調査のほぼ北延長部に位置する。調査の結果、第28次調査で発見した南北溝の北延長部は池になることが判明した。

木簡は、この南北溝と池の堆積土中から発見された。木簡の出土した暗褐粘土層(二〇〜四〇cm)は、池の堆積層の最下層にあたり、おびただしい木屑を含んでおり、木簡もこれらの木屑、瓦、須恵器などとともに出土した。なお、木簡を含んだこの層の一部は、後に池の南岸を縮少整備した際の整地層によって埋められている。総点数38点、その

中から16点を選んで釈文をかかげた。「和銅六年」銘を有する越前国庸米貢進札が注目される。

二、木簡の形態分類

6011型式 短冊形。

6015型式 短冊形で、側面に孔を穿ったもの。

6019型式 短冊形と推定できるもの。

6021型式 小型矩形のもの。

6022型式 小型矩形の材の一端を圭頭にしたもの。

6031型式 長方形の材の両端左右に切りこみをいれたもの。

6032型式 長方形の材の一端の左右に切りこみをいれたもの。

6033型式 長方形の材の一端の左右に切りこみをいれ、他端を尖らせたもの。

6039型式 長方形の材の一端の左右に切りこみがあるが、他端は折損あるいは腐蝕して不明のもの。

6051型式 長方形の材の一端を尖らせたもの。

6059型式 長方形の材の一端が尖って他端の形態が不明

のもの。

6061型式 用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。

6065型式 ある種の用途をもつと推定される木製品に墨書のあるもので、その用途が判然としないもの。

6081型式 折損、腐蝕その他によって原形の判明しないもの。

6091型式 削屑。

三、凡例

釈文は出土遺構ごとにかかげる。最上段に出土地点（アルファベット・数字）、つぎの段に形態による型式分類番号（本概報では千位の6を省き、三ケタで表わす）をそれぞれ記した。「」が二個あるものは表裏に記載のあることを示し、「」の中にさらに「」のあるものは同一面に別筆のあることを示す。

第78次南調査（6AAB区）

LC
05
061

□ 白物桶福徳
□
□
□

□ 白物桶
□ 白物桶
□
□
□
□
□

第91次調査（6ABE区）

GP
41
019

「五十上御^(本)□□□□^(原)□□□□」
「右 杖 教 六 杖」

GP
41
081

「杖者 袴 別一 杖 □□□□ 別」

GP
41
061

「車持若麻呂」
「車持若麻呂」
^(題籤)
「車持若麻呂」^(右側面)

GP
41
019

坐甘□□□供奉□

GP
42
081

□□髮マ一升
□一升

GP
42
031

□
□
三六
和銅二年

GP
42
081

□廿三廿四廿五廿六廿七廿八
□
□_(註)
□

GP
41
091

□六戊五巳九庚八辛七全六□□

GP
42
019

額田部御□
額田部□□

GP
41
091

鳥取マ□
鳥取マ大山
戴人□□

GP
40
039

□
□
近江國□□

GP
42
011

大廉□□御調塩□斗
三川国飽海郡大廉マ里人

GP
42
051

尾治國海郡嶋里人
海連赤麻呂米六斗

GP
42
032

三嶋上郡白髮マ里
_(攝津國)

GP
42
081

□下加都良

GP
41
019

□麻呂

GP
41
019

足遊□

GP 42 051 「越前国香々郡綾マ里綾マ里」

□田伊支見白米五斗

GP 42 051 「播磨国宍木郡山守里」

山マ加之ツ支

GP 42 032 「丹波国氷上郡石^(頁)里^(直)空取^(直)子万呂一俵納

GP 41 039 「播磨

白米五斗 和銅□年四月廿三日

五戸^(内)マ乎万呂俵

GP 42 033 「丹波^(国)□□□□^(頁)里^(干)□□^(部)羊一俵

GP 42 039 「播磨

納白米五斗 和銅三年四月廿三日

五戸

GP 42 039 「丹波国氷上□石頁里^(水)□□

GP 42 039 「備中国賀陽

俵納白米五斗 和銅三年□

深マ色人庸米

GP 42 039 「丹波□□郡川□□

GP 42 059 「賀陽郡葦

GP 41 051 「^(播磨国)明朋郡葛江里

□首麻呂俵

「丹人ア由毛万呂俵」

GP 42 051 「讃岐国香川郡原里秦公□身」

GP 41 011 「^(讃岐)綾郡宇治マ里宇治マ阿弥俵」

GP 42 019 「讃岐□」

「讃岐□□」

GP 42 031 「伊豫國桑村郡林里鴨^(鴨マ首加都士)中^(俵)」

□^(物部)□^(物部)□^(物部)

GP 41 031 「海部郡^(前里)阿曇マ都称軍布廿介」

GP 42 051 「不知山里俵五斗八升」

GP 41 081 「私里丹生波田六斗特□□」

GP 42 033 「三野里人佐伯マ」

「称才吕俵」

GP 42 032 「三^(野)里人古□^(万呂)□□」

GP 42 051 「新矢里」

GP 41 039 「大前里六□」

GP 42 039 「^(野)井里五斗」

「石□里□」

GP 42 081 「□^(郡)海村□□」

「□^(見)マ知方□」

GP 42 059 「□^(郡)木里馬甘」

「□」

GP 40 039 「□□□□」

「白米五斗」

GP 41 051 鷓甘部郡徳郡越中國讃岐國

津伎國針間國近江國

GP 42 061 名郡 (箱側板)

GQ 42 081 淡淡河推推糧霜 推海梅推海物物物物讓讓

第92次調査 (GACCIA)

DP 25 019 御府謹解

DP 22 019 大中 膳部所申年分器

膳

DP 25 011

長越マ旦濱 尾安尾 三十

DP 22 011 常陸那賀郡大伴マ弟未呂 巳時

DP 22 011 九月十四日上野國 三十

DP 25 019 竈薪

輕マ

DP 25 081

DO 22 091 位上日

DP 22 091 進納物

(左側面にも墨痕あり)

DP
25
011

「
□
美作國坂合マ大足
」

DP
25
051

「
春マ古□
播磨國□
□^(穂)
□^(里)
」

DP
25
039

「
越前國安□^(安須村)
」

DP
22
039

「
越前國登能郡翼倚□
庸米六斗 和銅六年□
」

DO
24
011

「^(伊勢國)
三重郡黒鯛廿二口
」

DP
24
039

「
□
□
□
」

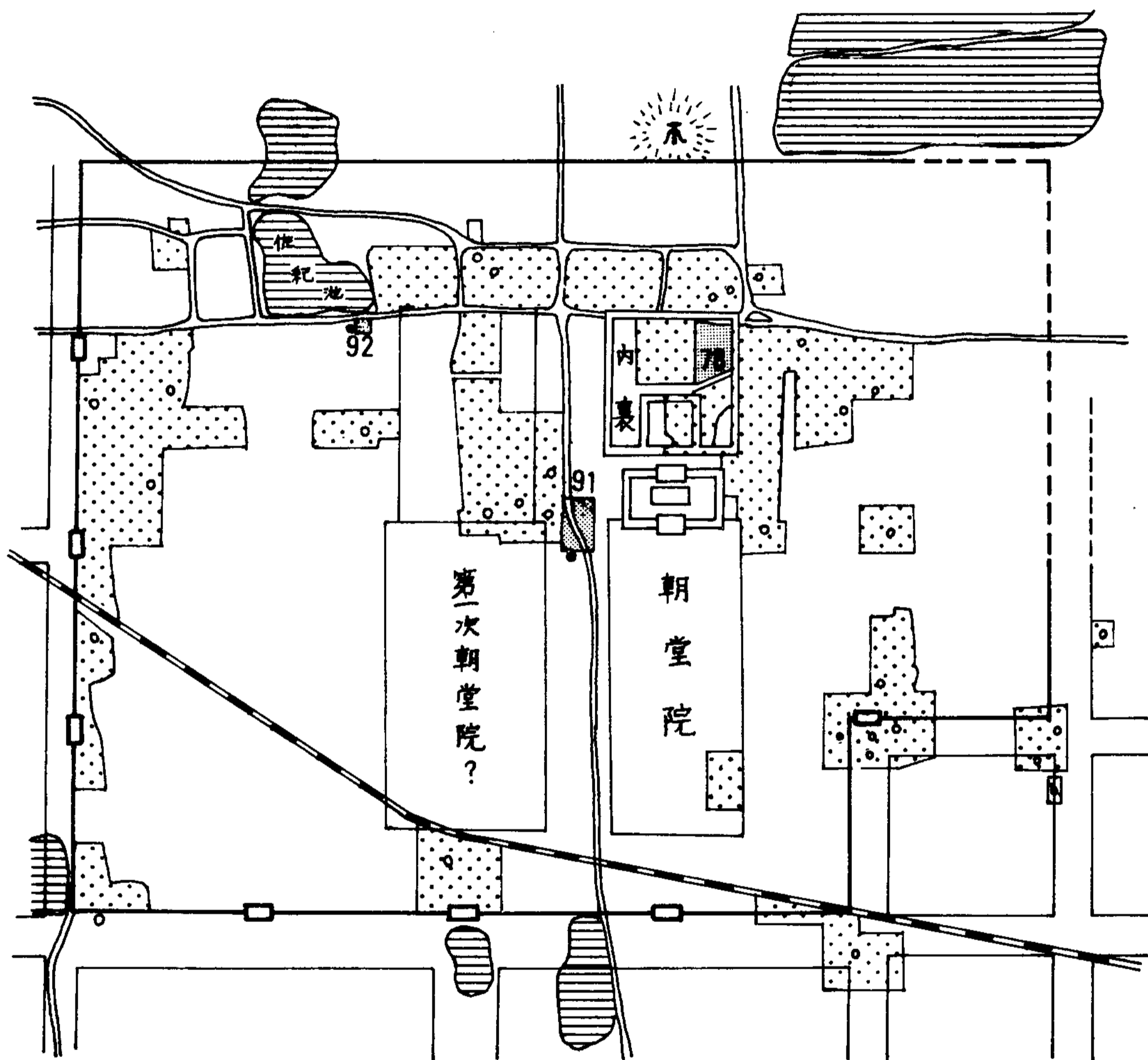
「
四斗五□
」

DP
25
011

「
□^(存)□^(啓)謹言□
九□□九□
」

「
□
□
□
吾我我我奴我思
」

木簡出土地点略图



- 既出土地点
- 今年度出土地点
- ▨ 既発掘地
- ▩ 今年度発掘地